

にぎわい

日本海にぎわい・交流海道推進協議会通信

会員だより



「小樽築港駅再開発」

北海道 小樽市

明治から大正にかけて、北海道の金融・物流の中心地は小樽でした。そのため小樽には銀行・流通会社の本支店が多く立ち並び、それら歴史ある建物・倉庫は現在も多く残されております。その歴史ある街並みは、当時の面影をそのまま残しており、函館と共に有数の観光地となっており、毎年500万人もの観光客が小樽を訪れます。

小樽港は平成2年のマリーナのオープン以来、ウォーターフロントの開発を鋭意行っています。昨年10月には小樽運河、旧日本郵船株式会社小樽支店の建物(国指定重要文化財)周辺の緑地(公園)がオープンしました。歴史的景観を保全するため敷地内の倉庫、建物を活かして整備を行っており、北海道開拓当初の面影を、そのまま今に残した公園になっています。

小樽の持つ古い歴史を活用したウォーターフロントの開発を行っている一方、小樽市活性化の切り札として、JR築港駅貨物ヤード跡地についての再開発事業を小樽市が推進し、新しいまちづくりが進められてきました。

平成3年11月に(株)小樽ベイシティ開発が設立され、用地を取得しましたが、計画地は工業地区・臨港地区であったため、国(運輸省、建設省)、北海道、小樽市、地元関係者等により、官民一体体制により、小樽の海や文化を最大限に生かしたウォーターフロント



▲マイカル小樽の全景

の開発が行われました。

その「マイカル小樽」が3月11日にオープンしました。マイカル小樽はシアター、アミューズメント、ショープログラムの多彩なエンターテイメントと、リゾート、そしてショッピング機能を併せ持つ、「エンターテイメント”都市”」となっています。大きさは売場面積98,000㎡は北海道内最大で、建物の延べ床面積は34万㎡は国内最大です。(東京ドーム7個分!)オープン初日は平日にも係わらず12万人、週末の4日間では約40万人の人が訪れています。小樽市の人口が約16万ですので、いかに注目を集めたかお分かり頂けると思います。また、JRやバスの利用者が約30%と交通機関とのアクセスが良い立地条件となっています。

今回のマイカル小樽のオープンが、港町小樽の魅力を高め、小樽港の活性化のみならず、北海道の活性化につながることを期待しています。



▲マイカル小樽のパフレット



小樽（おたる）市

市名の由来…アイヌ語の「オタルナイ」（砂だらけの沢）から由来。

小樽は全国的にも有名な観光地であることから、観光スポットがたくさんあります。なかでも小樽運河は夜にはガス灯の明かりで照らされ、幻想的な雰囲気となっています。また、ガラス工房もあり、ガラスの待ちとしても有名です。



レポート

「日本海にぎわい交流海道推進協議会」 の新たな展開への期待（投稿）

本会議も4年間開催され、今後は新たな展開が期待され、検討されています。本会議の意義としては、特に成果を求めず、サロンの機能を持たせることが発足時の発想でもあり、堅持されていくことを期待します。

ところで、日本海の港湾の特性は、太平洋側と異なり背後圏の産業は集積が少ない傾向にあります。各貨物の流動やそれを踏まえたポートセールスを勉強してみると、やはり1港だけでは、船社が興味を示すような貨物は少なく、特に大型船は複数港に寄港するということが現実的になります。そこで、今後のポートセールスは、できれば各品目別に複数の港湾が連携するということが必要になるのではないのでしょうか。新しい全国総合開発計画には21世紀の国土づくりの考え方として“「集中」と「巨大化」により集積効果を上げるのではなく、広い圏域において、それぞれに個性的な地域間の「連携」と「交流」により集積に替わる効果を発揮”とあります。港湾に翻訳したら地域が持つ個性、つまりは、各港湾が得意な特定の貨物で広域的に連携し、交流することが中枢港湾等の集積に替わる効果となると解釈するのは行き過ぎでしょうか。

本会議で知り合った管理者同士が実務でも連携していくようなきっかけとなるような雰囲気を持たせることができれば、結果として意義のあるサロンになるのではないのでしょうか。

北海道開発局 港湾部 笹島 隆彦

編集後記

最初に、この16号の発行が大変遅れたことをお詫びいたします。12号で「春らしい話題を掲載出来れば」と記載しましたが、北海道は4月に入ってから雪が降り、まだ雪が多く残っています。既に桜も咲き、散っている地方もありますので、日本の長さを実感しています。

4月は人事異動の季節ということもあり、本協議会の担当者の方でも該当される方がおられると思います。移動されましても協議会へのご指導・ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

（北海道開発局 港湾計画課）

編集・問い合わせ先

日本海にぎわい・交流海道推進協議会事務局

北海道開発局 港湾計画課 調査係内

TEL: 011-709-2311 (内線5617)

FAX: 011-709-2147

e-mail: k-honma@hda.go.jp